

第6回七尾市総合計画審議会会議録（要旨）

日 時	平成20年9月19日（金）14時00分～16時10分
会 場	ミナ．クル3階多目的会議室
委 員	<p>【出席】前山(正)会長、北原副会長、永江委員、長田委員、森下委員、浜浦委員、神戸委員、石垣委員、濱委員、高島委員、川島委員、藤井委員、津田委員、谷内委員、森山委員、岡田委員</p> <p>【欠席】田中委員、前山（英）委員、関軒委員、坂口委員</p>
事務局	尾田企画政策部長、平田企画経営課長、原田係長、嶋本主任、久水主任
内 容	
<p>○ 会長あいさつ</p> <p>○ 協議事項</p> <p>【協議第1号】七尾市を取り巻く動向 (委員からの意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山林の面積の割合が少ないのではないかと。国の統計上の面積はないのか。 → (事務局) 課税台帳上(登記上)の面積で記載してある。 農林課の森林面積等を確認し、再度次回に示したい。 ・「日本海側特有の冬季に降水量が多い気候」を「冬季に降水量が多い日本海側特有の気候」と表現を変更した方が良い。 ・特性について、SWOT分析を考えた場合、ここでは強みだけを表現しているが、弱みも記載した方がよいのではないかと。また、国や石川県の中で七尾市がどのような役割を果たしているか、どのような位置づけかを記載すべきではないかと。こういった前段や「はじめに」といったところで書いたほうが良い。 → (事務局) 検討させていただきたい。特性については、他市の事例を参考にするとマイナス面を書かず、強みを記載している。 ・特性の順番は、何か理由があるのか。能登の中核都市を最初にした方が良い。 → (事務局) まちづくりの課題等に対応している。 ・七尾市の概況と社会動向について、日本全体の状況を前に示して、七尾市の概況を後で記載した方がよいのではないかと。 → (事務局) 七尾市の総合計画なので、まず七尾はこうなのだという七尾市の現状を押さえて、国ではこういう状況であるというような構成で作っている。アプローチの仕方については、委員各位の意見をいただきたい。 <p>【協議第2号】七尾市のまちづくりの課題 (委員からの意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働による行政経営の推進について、行政経営の話なのか地域経営の話なのかを確 	

認しておきたい。まちづくりの課題で、いきなり行政経営というのではなく、協働という時点で、行政以外のセクターが入ってこないと矛盾することになる。ここは、地域経営のほうがふさわしい。文章表現について、前段に現状、後段に課題が記載してあると思うが、課題を太字や箇条書きにするなどして、わかりやすいようにしてほしい。

- ・地域経営だけでなく行政経営についても、それぞれ大きな課題であるので、書くべきである。地域で解決できないことがあれば市で解決する、市でできないことは県で解決するなど、補完性の原理に乗っかってやっていくことが、協働の基本にある考え方である。行政も低コスト化をしなければいけないし、民間も何でもかんでも行政にやってもらうことも問題である。

→（事務局）ここでの課題は大項目ごとで記載してある。協働については、「市民協働と市民参画」と「効率よい行政経営」とに分けて記載してあるが、再度検討させていただきたい。

- ・広報・公聴について記載しなくていいのか。市民が主役のまちであるのなら、市民に開かれた行政というのが大前提である。
- ・地方分権の推進について、わずか6行で書かれているが、権限や財源もなく、分権するというやり方はどうなのか。防災は、災害を防ぐものであり、最初にくるものである。先に防災対策があって、次に災害があつてからの対策をするというように、順序を逆にすべきでないか。

→（事務局）地方分権について、地方が主役の国づくりという言葉の裏には権限や財源がついてくるという認識でいる。起こる前の防災と起こった後の被害を抑えるという考え方については、再度検討していきたい。

- ・課題として、地方分権に対応できる人づくりが大きな課題である。課題自体は基本方針に対応して書いてあるが、地方に求められているのは自分達で考えて、実行していける人材育成が大きな課題である。

→（事務局）地方分権の推進やまちづくりの課題の協働のところに記載していかなければならないと考えている。

- ・地域経営の実現とより効率的な行財政改革を分けて記載すべきであるが、第1節の特性の前に七尾市の行財政状況を記載すべきである。

【協議第3号】七尾市の将来像

【協議第4号】まちづくりの基本方針

（委員からの意見）

- ・市民が主役のまちについて、財政的に厳しく、公共サービスができなくなるから協働であるということを知りやすくして市民が主役だということか。また、市民が主役だということは当たり前のことである。この言葉にした理由は何か。

→（事務局）日本国憲法ができてから、このことを強く言っているが、地方自治の視点から、原点を書いていくというのが根底にある。七尾市の財政が厳しいから、そうしたわけではなく、国と地方の力関係、潮流等を考え、市民が主役のまちという表現になった。もっとわかりやすい表現があれば、委員の方々に意見交換していただきたい。

- ・市民協働とは、市民と市民が協働することか、市民と行政が協働することか。また、ガバメントの地方自治体は巨大化してきており、スリムにしていかなければならないし、地域で地域のことを問題解決していくというガバナンス力は豊かにしていかなければならない。
- ・行政経営の推進については、効率的な・効果的なのというような、方向性を示す形容詞をつけないといけない。
- ・国も進める必要があるが、小さな政府を進めていかないといけない。市民は、今までの行政サービスを100とすれば、生産年齢人口が減っていく中で、80の行政サービスでも受け入れるというような筋道が見えるようにもっていかないといけない。この議論は永遠に続くと思う。
- ・市民が市政に参加しなければならないというのは、代表が十分に活躍していないということになる。もう少し工夫した表現にした方がよい。
- ・七尾市の将来像の「七尾湾と温泉を活かした」について、なぜ、湾と温泉だけなのか。
- ・先ほどの小さな政府ということにすると、行政サービスの向上を図るとは言えなくなり、行政サービスを低下させずというぐらいの言葉にしないとけない。小さな政府というのは反対である。本来なら無駄なことをやってきたのがいけない。国の借金はいくら、市の借金はいくらということは出したほうがよい。
- ・市民が満足いく総合計画は、財政の裏づけがなくてはならない。しかし、ここで金のお話をあまりする必要でないと思う。将来の構想であるので、場合によっては、実現不可能なものもあるかもしれないが、夢をもう少しこの基本構想に語るべきだと思う。できるかできないかを、ここで議論をしても語りつくせる問題ではない。そういうことについては、実施計画等でできるだけ答えていくべきである。
- ・基本方針（基本構想）は、議会で議決するものであるもので、バラ色のことを言っているだけでもだめなのでないか。
 - （事務局）10年後の目標を定めて、まちづくりをしていくということであるが、それを裏付ける10年後の財源の議論は、今のところはできない状況である。長期的な財政見通しは作っているが、10年後のコンクリートのような事業計画は作れない。大きな目標に向かって、前期5カ年計画をある程度固め、3年間については、財政的な裏づけのある実施計画を作っていきたい。10年後の七尾は、こうあるべきだ、こうありたいという夢の部分も書いていかなければならないと思っている。
- ・地域における小さな政府を予算も含めて作っていくという話が出ているが、こういったことを総合計画に入れなくていいのか。
 - （事務局）基本計画の中で、地域づくり協議会の支援をするということは載せてある。
- ・こうあるべきだとかこうありたいという心強い言葉が出てきか、確かに夢や希望のないまちには住み続けたいと思わない。しかし、現実には財政的なこともあるので、総花的ではなく、優先順位をつけ、大胆に方向性を出していかないといけないのでないか。

→ (事務局) 人口減少下において、いかに生き延びていくかという視点で、集中的に事業を展開していきたいと考えている。今検討している段階であるが、重点プロジェクトを考えている。出て行かないという施策、入ってきていただく施策、住んでいただく施策、子供達を増やす施策ということを考えている。

- ・女性会で子育てについて、取り組んでおり、子育てに関する行政サービスや企業の子育て環境などについて調査したりしている。少子化を食い止めていただくようにしていただきたい。

→ (事務局) 人口減少下で10年後どのようなまちづくりをするか、人口減少下で持続できる都市づくりという観点で、重点プロジェクトは、違う見せ方をしたい。

【協議第6号】将来人口

- ・大正9年の年齢構成がわからないか。人口が減ることについて、マイナス要素もっているかもしれないが、七尾市がおそらく一番元気をもっていたのが明治時代から昭和の初めだと思っている。そのころは、今より人口が少ないという話をよくするので、年齢構成がわかれば教えていただきたい。
- ・人口だけから判断してはいけませんが、人口が少なくても生産年齢人口の年間一人当たりの稼ぎが多ければ、人口の問題ではないと思う。10年間で2000人、毎年200人転入してくるのであれば、体感交流関連事業で家族含めて200人どう入ってくるか。母親も働きやすく、子育てしやすいよう企業を変革し、毎年60社ぐらいが一人の雇用を発生させる。観光と物販とをもっと連動したようなことを頑張っていくことを読みようによっては読めるはず。ただ、書き方が真面目すぎるので、暗い書きぶりではなく、夢のある総合計画というものを表現できるようにしてほしい。
- ・観光客が増えれば、ビジネス機会が増えるので、その辺の施策をもっと出してほしい。通過点ではなく、七尾にお金を落とさせる仕組みをもう少し強調したほうが良い。
- ・年寄りが増えることが悪いことでなく、前期高齢者ならばボランティアで年寄りをみるような補完的な事業を作り上げていくことが大事である。また、海外からの移民を七尾で受けるというような、それぐらいのグローバルな発想が必要だと思う。
- ・国や市の財政状況、社会保障が益々厳しくなる。20年後には生産年齢人口が1万人ほど減る。市民所得が劇的に3割ぐらい増えないと、七尾市の財政は潤わない。夢を実現するためには、市民にも我慢してもらい、こういうことをしてもらわなければならないというようなことが基本構想ではないのか。実際はこうなるが、交流人口を増やすことにより、市民所得が増え、一定のサービスが維持できるというようなことが計画の中になければならない。根無し草の計画ではまずいので、金のないところは、助け合いの中でやっていくという部分がある。

→ (事務局) 財源的な担保を含めて基本構想をつくるのか、ある程度大きな夢を踏まえてつくるかということであるが、地方交付税が下がることが目に見

えており、安定した財源が担保できるかということについては、コンクリートのなものはない。しかし、10年後に七尾はこういったまちを目指すということを構想としてつくっていくというのが私達の立場である。意見に対して、十分な答えになっていないかもしれないが、目標値も設定して、前期5ヵ年間しっかり施策をつくり、来年度から3年間は財源を確保した実施計画をつくっていきたい。

- ・10年後、この計画を見据える人達を作るべきである。

○その他

(事務局から)

- ・これまで審議していただいた項目について、意見シートに意見を記載していただき、来週の25日を目処に提出していただきたい。それをまとめて答申の意見書という形でつけたい。
- ・次回の日程については、9月30日(火)午後1時30分から、フォーラム七尾4階の中ホールで会議を開催する予定である。